
『T a S 村人Aの気持ち』

グレンラガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『T a S 村人Aの気持ち』

【Nコード】

N1304C

【作者名】

グレンラガン

【あらすじ】

この物語は、ロイドが旅立つ前のイセリア話である。イセリアにある学校の生徒の一人、「カルバ君」通称村人Aの青春の1ページです（笑）

村人A「前編」(前書き)

微妙なアングルからの話ですが、暇な方は読んでください

村人A「前編」

あの時、言っておけばよかった……自分の気持ち……

《教室》

「起きなさい！！ロイド！！」

「あ、リフィル先生おはよう」

「『おはよう』じゃないでしょ！賣方これで何回目？居眠りがしたいなら家に帰りなさい！」

「わかりました。ほんじゃ、また」

「つて、本当に帰るつもり！？ま、待ちなさい！！」寝惚け眼のロイドを先生が叱る。それを見ている僕達が笑う。僕はこの光景がとても好きだ。この村にいて面白い事と言えば、授業中のこの一瞬くらいなものだ。でも……僕はそれ以上の物が最近出来てしまった。「も〜ロイドったら。本当に帰っちゃたね」青い髪の男子が近くの席の女の子に話しかける。その女の子は、綺麗な長い髪をなびかせながら微笑み、

「あはは。ロイドらしね。ちょっとはジーニアスを見習わないかね。」僕は二人の会話をしている姿を見ながらため息をしていた。そう、恥ずかしいはなしであるが僕はあるうことか『神子』のコレットさんに淡い恋心を抱いてしまったのである。事の始まりは三日前である。授業が終わり、机でメガネを磨いているときに不意にメガネを落としてしまい、目がとても悪い僕はどこに落ちたか分からず手探りで探していると、

「はい。メガネ」やさしい声と共にメガネが目の前に現れた。差し出されたメガネを受取り、改めて礼を言おうと顔をあげたとき、目の前に立っていたのはコレットさんであった。その瞬間までは何とも思っていなかったが、次の瞬間コレットさんにはっこりと笑い、「カルバ君ってメガネ外すと可愛いね」その笑顔と声をまのあたりにしたとき、僕の胸は巨大な弓矢により撃ち抜かれてしまった。そ

れから僕はぼくとしているとコレットさんを見てしまう癖がついてしまった。しかし、この恋が実のらないのは自分でも良く解っていた。彼女は神子であるので、いずれ旅立たないといけないのである。それに、コレットさんと仲がいいロイド君はカッコいいし、剣術は多分村一番だ。唯一ロイドより勝っている勉強だつてジーニアスには負けている。つまり、僕には魅力となるものが無いのだ。でも、せめて仲良くくらいにはなりたい……。一度でいいから一緒に遊びたい……。そんな願望ができた僕は、休み時間中に教室の窓から外を見ながらいろいろ考えていると、バコッ！！　頭に何かがぶつかった。かなり痛い……。あまりに不意にだったの
で思考力が止まり、頭をさすりながらぼくとしていると、
「ご、ごめんなさい！！」謝る声が聞こえた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1304c/>

『T a S 村人Aの気持ち』

2010年10月13日17時01分発行